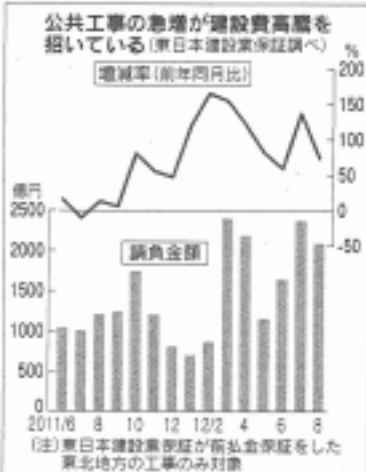


東日本大震災後の復興の担い手である東北の建設業の業績が急降下している。

東北財務局の調査によると、地元建設業全体の経常利益は2011年3月期に赤字に転落する見通し。一斉に始まった復興工事で人や資材が不足して建設費が高騰し、急降下していた公共工事などの単価費用と見合わなくなつたためだ。地元の建設会社の経営を圧迫しており、復興の足かせになる懸念も出ている。

「職人と資材の奪い合い」だ。仙台市の元請け建設会社、隈根組の隈根社長は言う。現場では資材不足が顕在化し、工期が遅れるケースも出てきた。東日本建設業保証の調べでは同

# 被災地の建設業業績が急降下



資材が不足 → 工費高騰 → 採算が悪化

社が前払い金保証した今年4～8月の東北地方の公共工事は943.4億円と前年同期の約2倍。だが公共工事は半年度執行が基本。工期を取り戻せないと採算を限付きの特需に建設会社は増やす。採算を悪くしている

較的堅調だが、経費の上昇分を元請け業者側に転嫁しきれない元請け業者の業績悪化が懸念だ。関や高は原価高騰分を補填する仕組みを導入した。だが、建設会社幹部は「日々変化する単価上昇のスピードを反映し切れてない」と漏らす。

## 大手ゼネコンにも波及

物価高騰など経費が急増する市は供給拡大へ2千億の新設を決めた。だが宮城県道路や堤防の復旧や住宅再建といった復興工事は今後さらに増加する見通し。既に多くの現場で不足が指摘されている生コンクリートの供給もさらに逼迫する。宮城県では13、14年度に12年度比で約2割増となる300万立方メートルの生コンが必要となる見込みだが、供給のメドは立たない。東北部の気仙沼地区の需要は最大で供給力の3倍増に及び、需給バランスの悪化がさらなる価格上昇を招く恐れもある。生コン業者のかじ取りも難しい。気仙沼地区生コン